

NO,11
田中清隆
「方法装置」

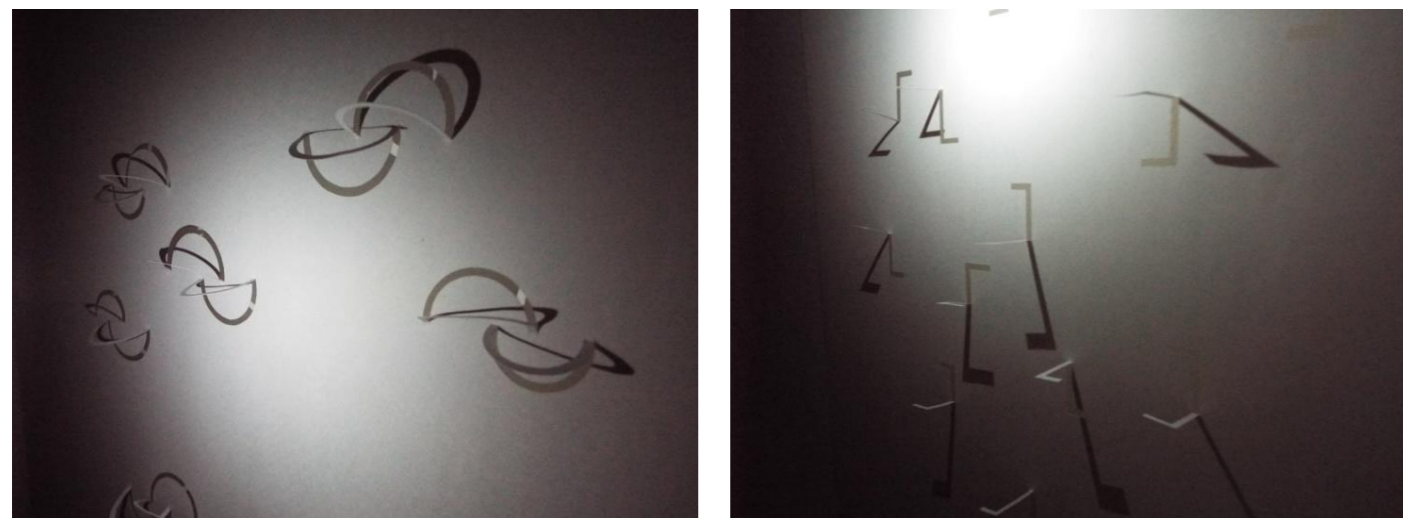
「ヒカリ」と「カゲ」の楽しみ方、遊影シリーズ

「あるもの」=物体を「ヒカリ」で照らすと「カゲ」が現れます。

「ヒカリ」から物体の距離・方向・角度により、長く・短く、厚く・薄く、伸びて・縮んで「カゲ」の表情が変わります。単純な「モノ」から現れる「カゲ」を捜し、不思議な空間を見つける、作品群＝「遊影」シリーズを数年前から手掛けてきました。そこから少し変身した作品の展開です。

2013年から制作している「遊影」シリーズを通して身近にあるさまざまな素材を試して、採用しましたが、2017年の作品から「紙」と向き合い、その中から見えてくるものを探して、切り出し、「カタチ」を広げます。

切り出す「カタチ」は、向き合った「紙」の印象や気持ちに従って行きます。結果として「その時々」の「ヒカリ」と「カゲ」の「錯視的」な現象を感じられる「装置」の制作を目指しています。



NO,11
田中清隆
「方法装置」

